# 周年企業に聞く 事業継続のヒントを探る

塗料業界を取り巻く環境は、原料高に化学品物質の規制、需要の低迷等、多くの課題を突き付けられている。しかし、塗料・塗装関連業界は、会社の規模に関係なく長寿事業者が多く、50年、100年と歴史を刻み、幾度も困難を乗り越えてきた。この間、1970年代のオイルショック、1998年にはバブル崩壊、2008年のリーマンショック、2020年のコロナショックがあり、危機的な状況もあったはずだ。また、これからも困難に出くわすことも予想される。そこで、今年もしくは来年に50年以上（10年単位）の周年を迎える企業に声掛けし、その中から3社の内容を取り上げる。自社の社風、強みに加え、次のステージに向けた取組み等から、長寿企業の実態に迫る。

## 2025年に90周年

## 江戸川合成株式会社

### 機能性付与技術に強み

#### 価値創造による市場開発

◇会社概要・社風をお教えください。

1935年の創業より長きにわたり、機能性に優れた塗料とサービスを提供し続けている日本で有数の塗料メーカーです。導電性塗料をはじめ、機能性付加を得意とし、過酷な状況で稼働する産業機械を守る耐切削油性塗料など、独創性の高い製品を提供しています。「ニーズに応える創造力。」をスローガンに、特殊塗料の開発で新たなコーティングバリューを創造し、お客様の企業価値の向上を支援することにこだわっています。

◇貴社の強みをお願いします。

お客様のご要望を満たす特殊塗料の開発を得意としています。特に機能性を付与する塗料開発の技術は当社の強みです。お客様が使用する際のハンドリングについても考慮し、塗装に関するあらゆる情報を収集・整理のうえ、トータルバランスに優れた塗料を提供できることも当社の強みです。

◇これまで事業継続の際に、困難な出来事とそれをどのように乗り越えてきましたか。

現社長就任後間もなく、多数の熟練した製造部員がほぼ同じタイミングで定年退職を迎えることとなり、技術の伝承が困難な状況に陥りました。その際、一部のベテラン社員を「若手の相談相手」として継続雇用するとともに、若手によるISO準備委員会を設置し、認証を取得することで作業標準化を進め、乗り越えることができました。

◇次のステージに向けて、取り組みたい重点項目は。

人・環境・最終製品に配慮した企業活動を通じ、サステナブルな社会の実現を目指しています。また、同業・類似業界企業・異業種企業との協業・共働により、当社単独では生み出すことの難しい、新しい価値を創造する塗料・コーティングソリューションを提供するような市場開発にも取り組んでいきたいと考えています。

◇塗料・塗装業界へのメッセージをお願いします。

2025年に創業90周年を迎えます。これもひとえにお客様・仕入先様・協力会社・同業社の皆様のご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。今後も業界発展に努めてまいります。

周年一覧 2024年～ 2025年（創設50年以上、10年単位）

| 創業(設)年数 | 企業・団体名 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 130 | 北河製品所 | | | | |
| 119 | 浅田鉄工 | | | | |
| 110 | 藤倉応用化工 | 大塚刷毛製造 | ハンディ・クラウン | | |
| 109 | トウペ | マキタ | | | |
| 100 | 久保孝ペイント | 東京ペイント | 和信化学工業 | 明治機械製作所 | |
| 99 | 大成化工 | 日本ピグメント | CBC | 松原塗料 | |
| 90 | 荒川塗料工業 | オキツモ | フタバペイント | 東洋精機製作所 | |
| 89 | 江戸川合成 | 大谷塗料 | 大信ペイント | 服部塗料工業所 | 佑光社 |
| | 東ソー | | | | |
| 80 | 東日本塗料 | 東京樹脂工業 | | | |
| 79 | 川研ファインケミカル | | | | |
| 70 | 茨木塗料 | いけうち | 日塗装　北海道 | 日本精密測定機器工業会 | シモダ |
| 60 | 日立化成商事 | ウシオ電機 | 大阪タイユー | 太佑機材 | |
| | 札幌塗料商懇和会 | 小樽塗料商業協同組合 | 徳島県塗料商業会 | 福岡塗料商業協同組合 | 日塗装　埼玉 |
| | 日塗装　福岡 | 日塗装　長崎 | 日塗装　佐賀 | 日塗装　宮崎 | 日塗装　大分 |
| | 大阪塗装協同組合 | 兵庫県塗装工業協同組合 | 日本接着学会 | 日本橋梁建設協会 | 建設産業専門団体連合会 |
| | 機械振興協会 | 産業環境管理協会 | | | |
| 59 | 東京熱化学工業 | ヲサメ工業 | 三王 | 関東塗料工業組合 | 札幌塗料商業協同組合 |
| | 日塗装　鹿児島 | ウレタン原料工業会 | 日本建築仕上材工業会 | 日本鋼構造協会 | |
| 50 | ダウ・ケミカルグループ | ビューラー | 日塗商　滋賀 | 滋賀県塗料商業会 | 広島塗装事業協同組合 |
| | 腐食防食学会 | 日本航空宇宙工業会 | | | |
| 49 | 熱研化学工業 | ORSコジマ | 日塗商　三重 | 愛知県塗料商業協同組合 | 岐阜県塗料商業協同組合 |
| | 三重県塗料商業協同組合 | 茨城県塗装工業組合 | 日本工業塗装協組連合会 | 神奈川県工業塗装協同組合 | 建設業振興基金 |
| | 日本家具産業振興会 | | | | |

*：創立年数は、2024年中に迎える年数

*：2024年版『塗料年鑑』（塗料報知新聞社発刊）収録企業・団体の調査による。

### 創立当時トピック～あの頃は～

#### 1950年以降飛躍する塗料開発

トウペが創立した1915年（大正4年）は、前年に開戦した第一次世界大戦が続いた年（1918年終戦）。科学分野では、冥王星が初めて写った写真が撮影されていた（当時は認知されず1930年の冥王星発見後に判明している）。

夏には第1回全国中等学校優勝野球大会（現全国高等学校野球選手権大会）が大阪府の豊中球場で開幕。10校が出場（全国73校が参加）し、京都府の京都二中が優勝した。

江戸川合成が創立した1935年（昭和10年）は、ブリュッセル万国博覧会が開かれた年。鉄道省が女子車掌を初めて採用し、NHKは国際放送を開始した。また、大阪市営地下鉄御堂筋線の梅田駅本駅が開業、あわせて心斎橋駅・難波駅間が開業した。全国中等学校野球選手権大会では愛媛県代表の松山商業が初優勝を飾っている。

東日本塗料が創立した1944年（昭和19年）は、戦時中（第二次世界大戦、太平洋戦争／大東亜戦争）であった。こうした戦争下、初の疎開列車運行。また、北海道有珠郡壮瞥町で大噴火が起き新しく造山、昭和新山と命名された。現在では、国の特別天然記念物に指定されている。また、有珠山とともに日本の地質百選に選ばれ、周辺地域がユネスコ世界ジオパークとなり、洞爺湖有珠山ジオパークの一部となっている。3社が登場した出来事を振り返ると改めて、歴史を紡いだ企業だということがある。

これら時代において、主な合成樹脂塗料の開発の変遷について考えてみよう。1881年に油性塗料が国産化された塗料は、その後1920年頃にかけて、油性錆止め船底塗料が開発されるなど油性塗料時代を迎えていた。

1935年頃は、半合成樹脂塗料時代への移行期で、フタル酸樹脂塗料（油性アルキド）やフェノール樹脂塗料が登場した。

1944年当時は、第二次世界大戦であり、翌年終戦を迎えた後、1950年代に入り新合成樹脂塗料の量産期時代に入り、アルキド樹脂塗料、エポキシ樹脂塗料、エポキシ変性樹脂塗料、不飽和ポリエステル塗料などが開発され、以降、飛躍的にさまざまな系統の塗料が開発され続け、現在に至っている。

### 長寿企業の共通点

#### 顧客ニーズへの対応が肝

長きにわたり事業を継続するためには、社内の環境、開発テーマ、姿勢など、多くの学ぶべきことがある。社風からは「人」、人の「挑戦」を大切にするなど、働きやすい職場環境がうかがえた。

3社に共通して言えることは顧客ニーズへの対応が肝になっていること。時代ごとに発生する社会課題に対して、顧客と会話し、ニーズを的確に捉え、それに応える創造力が事業継続の源であるようだ。

そして「差別化」も必要となりそうだ。自社の得意な特殊塗料で顧客の企業価値向上支援や高付加価値製品の開発、他に見ない提案力・解決力といった、自信を持って推進できることは強い武器になっている。

また、職人不足、気候変動・環境対応も共通の課題として、各社とも意識は高い。DX化に積極的に取り組み、自社製品、事業等で次なるステージに向かっている。

あらゆるモノの表面を護ることで長寿命化を達成し、限られた地球資源の保護・$CO_2$排出削減に貢献し、美しく彩ることで生活空間を豊かにしてきた塗料・塗装。塗料・塗装業界には100年を超える企業・団体がいくつもある。また、起業し、成長していこうとする企業もある。

先輩企業・団体の良いところを学び、話を聞き、これから10年、50年、100年と続けていけることを願いたい。

そして、時代ごとに課題を解決していく、〝新塗膜〟の活躍に期待したい。